

平成25年度版

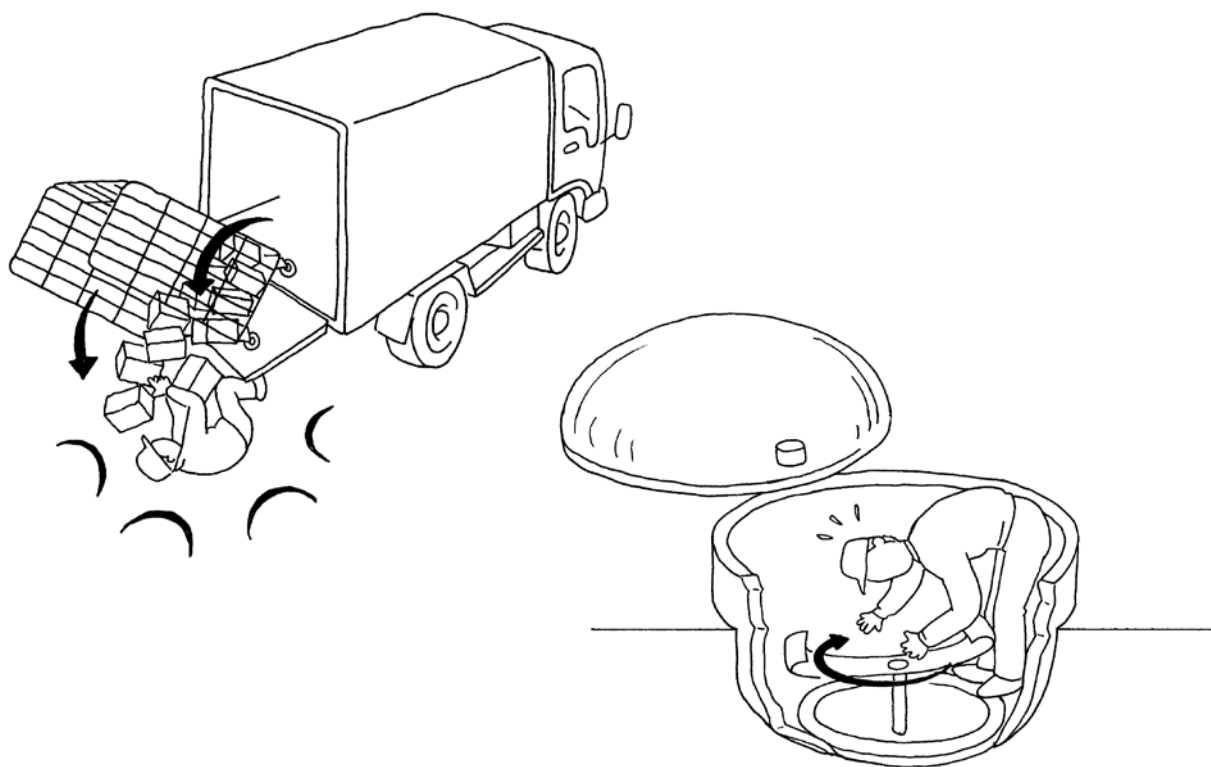
労働災害の現況と死亡災害事例



「安全見える化運動」

《スローガン》

見ること「気づき」から「考動」へ



大阪労働局・各労働基準監督署

ひと、くらし、
みらいのために

<http://osaka-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp>

H25.3

目 次

平成 24 年における労働災害の発生状況	1
1 業種別死亡災害の推移	2
2 業種別死傷災害の推移	3
3 平成 24 年死亡災害発生状況	4
4 平成 24 年業種別、事故の型別死亡災害受理状況	5
5 災害事例	6
6 死亡災害一覧	20

平成24年における労働災害の発生状況

1 概況

平成 24 年に大阪府内で発生した死亡災害は、58 人で前年と同数である。
重大災害については、13 件で、前年に比べて 3 件、30.0%増加した。

2 死亡災害の発生状況

(1) 業種別発生状況

- ① 製造業では、死亡者数は 14 人となっており、前年と同数である。
- ② 建設業では、死亡者数は 16 人となっており、前年に比べ 4 人、20.0%減少したが全産業に占める割合は最も多い。
- ③ 陸上貨物運送事業では、死亡者数は 8 人となっており、前年に比べ 2 人、33.3%の増加である。

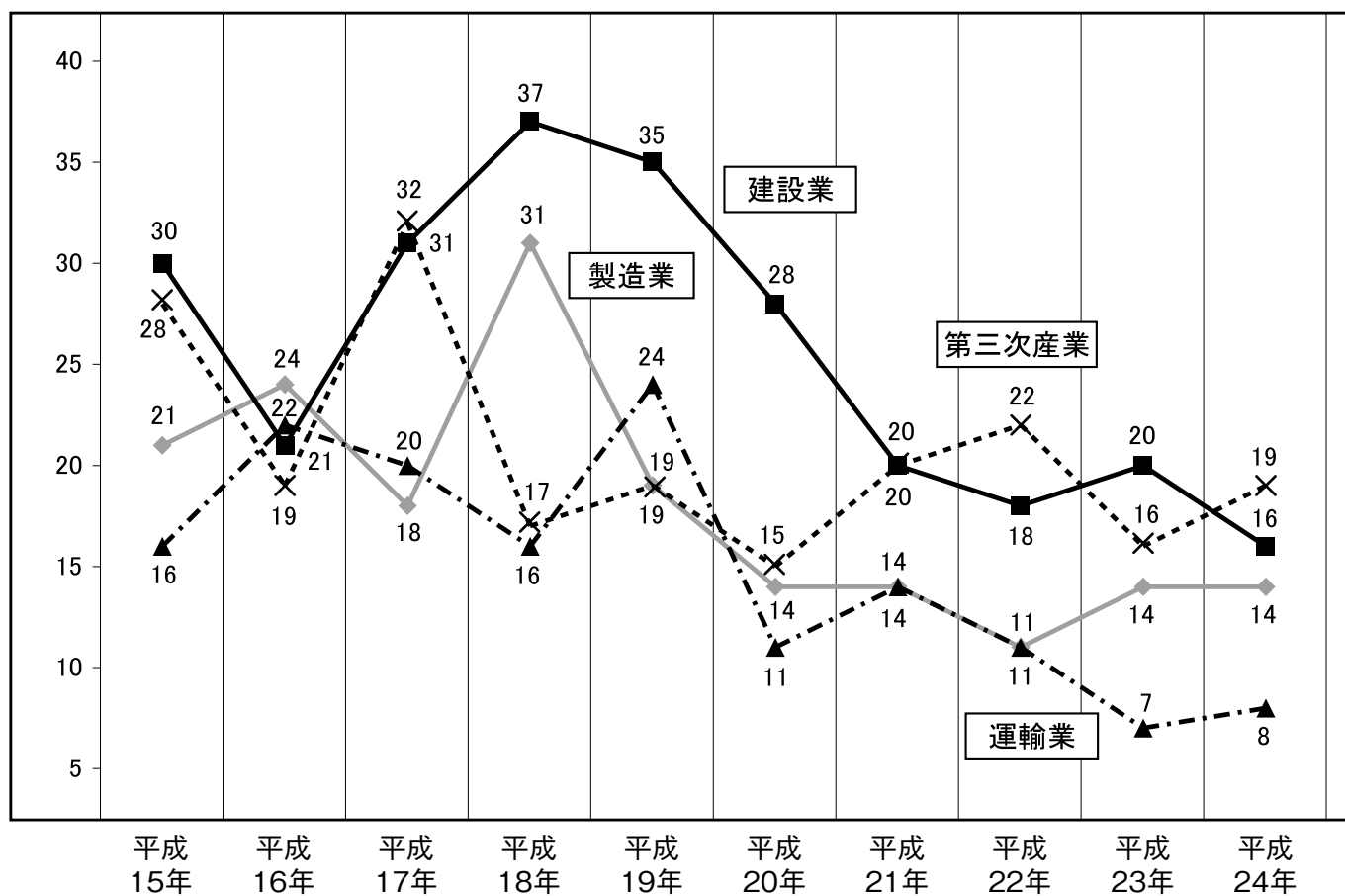
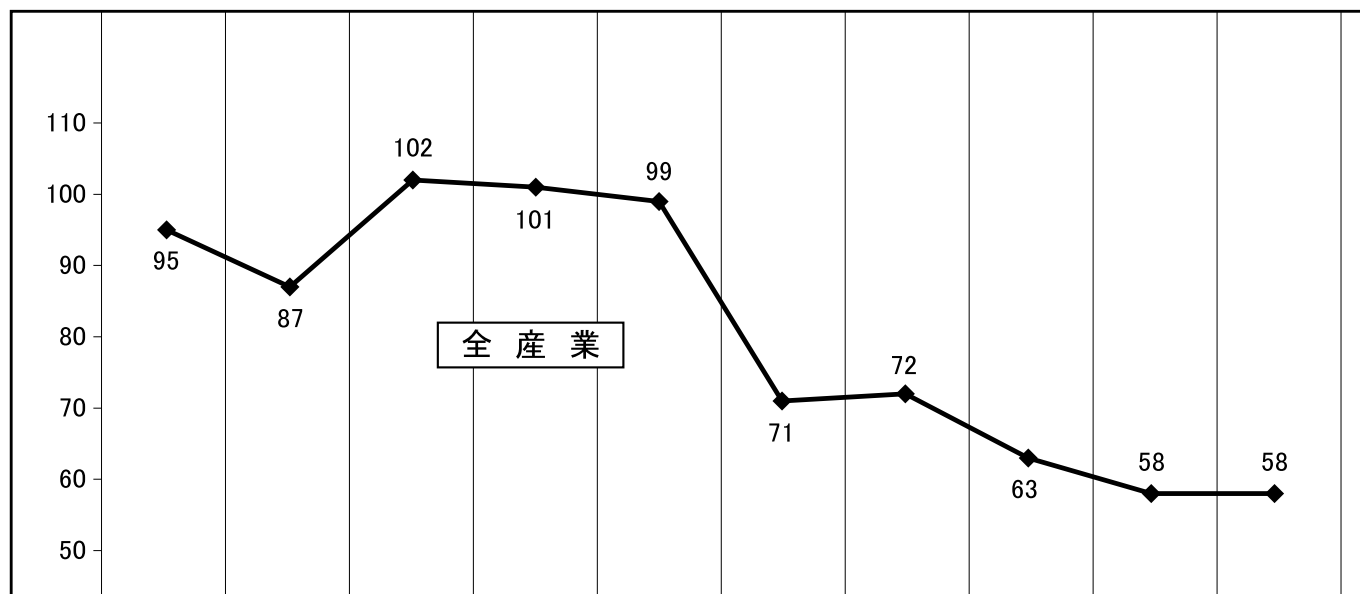
(2) 事故の型別発生状況

- ① 全産業では、事故の型別で死亡者数が最も多いのは「墜落・転落」の 20 人となっており、次に「交通事故（道路）」の 13 人となっている。以下、「はさまれ・巻き込まれ」、「崩壊・倒壊」、「転倒」の順になっている。
- ② 製造業における「はさまれ・巻き込まれ」による死亡災害は 4 人で製造業の死亡災害の 28.5%を占めている。
- ③ 建設業における「墜落・転落」による死亡災害は 12 人で、建設業の死亡災害の 75.0%を占めている。
- ④ 陸上貨物運送事業における「交通事故（道路）」による死亡災害は 4 人で、前年同期に比べて 1 人、33.3%の増加である。

3 重大災害

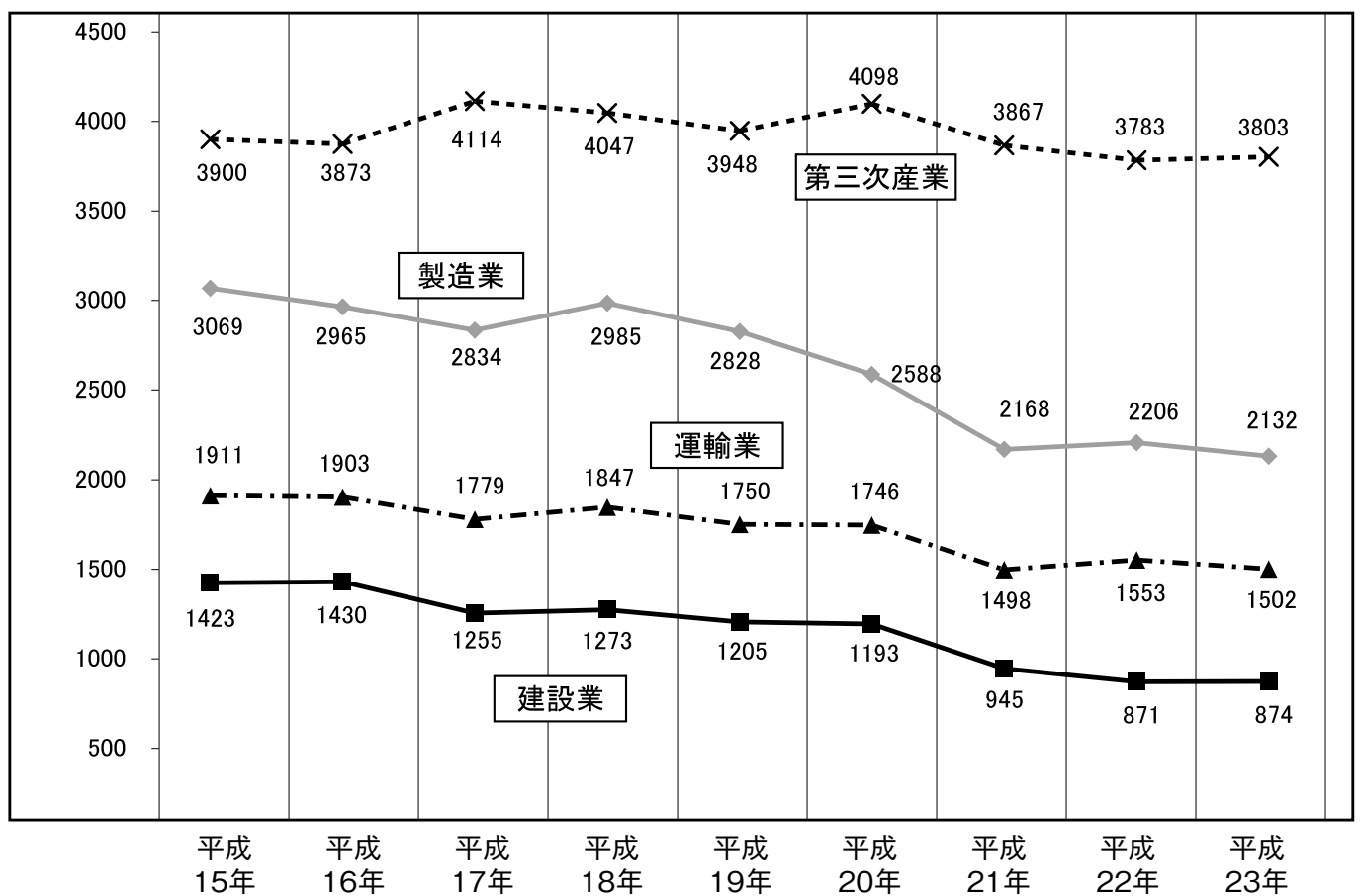
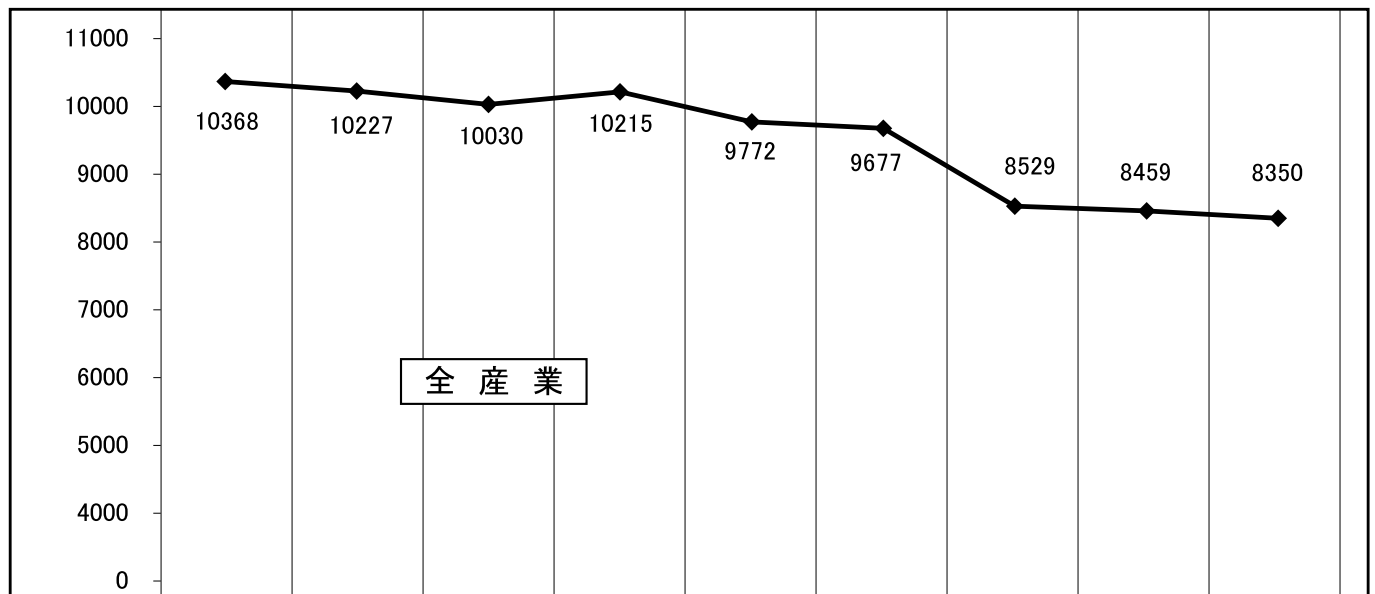
- (1) 平成 24 年に大阪府下で発生した重大災害は 13 件であった。死傷者数は 28 人で、そのうち交通事故が 7 件を占めており、死亡は 3 人である。
前年に比べ 3 件増加であるが、死傷者数は前年の 70 人から大幅に減少した。

1 業種別死亡災害の推移



注:運輸業とは、運輸交通業と貨物取扱業の和。第三次産業とは、製造業、鉱業、建設業、運輸業、農業、林業、畜産業、水産業を除く非工業的業種。

2 業種別死傷災害の推移



注:運輸業とは、運輸交通業と貨物取扱業の和。第三次産業とは、製造業、鉱業、建設業、運輸業、農業、林業、畜産業、水産業を除く非工業的業種。

3 平成24年死亡災害発生状況

平成24年死亡災害受理状況

業種	死亡者数	構成比(%)	前年同期		前年比較	
			死亡者数	構成比(%)	増減数	増減比(%)
全産業	58	100.0	58	100.0	0	0.0
製造業	14	24.1	14	24.1	0	0.0
鉱業	1	1.7	1	1.7	0	0.0
建設業	16	27.6	20	34.5	-4	-20.0
交通運輸業			1	1.7	-1	-100.0
陸上貨物運送業	8	13.8	6	10.3	2	33.3
港湾荷役業						
林業						
商業	9	15.5	6	10.3	3	50.0
その他の事業	10	17.2	10	17.2	0	0.0

受理(把握)件数で計上。

月別死亡災害発生状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成24年	4	4	10	4	6	2	9	5	2	6	5	1
同累計	4	8	18	22	28	30	39	44	46	52	57	58
平成23年	1	3	11	1	4	9	2	8	8	3	4	4
同累計	1	4	15	16	20	29	31	39	47	50	54	58
平成22年	4	3	3	5	5	8	6	9	3	3	5	9
同累計	4	7	10	15	20	28	34	43	46	49	54	63
平成21年	4	4	6	8	5	5	12	12	3	1	6	6
同累計	4	8	14	22	27	32	44	56	59	60	66	72
平成20年	5	5	8	6	10	3	11	5	3	2	6	7
同累計	5	10	18	24	34	37	48	53	56	58	64	71

発生月ごとに計上した件数。

平成24年建設業における災害種類別、工事種類別死亡災害発生状況

工事の種類	土木工事					建築工事					その他工事					分類不能	合計	前年同期				
	ダム	トンネル	地下鉄	鉄道	橋梁	道路	河川	砂防	土地整理	上下水道	港湾	その他	小計	ビル	木造				建築設備	その他	機械	電気通信
災害の種類																						
墜落・転落														2					1	5	6	11
飛来・落下																						12
崩壊・倒壊・落盤															1							
クレーン等の災害														1						1	1	2
建設機械等の災害													1									1
自動車等の災害																						5
感電災害																						
爆発・火災等																						
取扱運搬等災害																						
その他の災害																				1	1	1
合計														3	1	1	2	7		1	7	16
前年同期	1													6			5	11	2	6	8	20

4 平成24年業種別、事故の型別死亡災害受理状況

平成24年業種別、事故の型別死亡災害受理状況

平成24年	墜落 転落	転倒	激突	飛 来	崩壊 倒壊	激突 され	はさまれ 巻きまれ	切れ こすれ	踏み 抜き	おぼれ	高温・低温 物に接触	有害物等 との接触	感電	爆発	破裂	火災	交通事故 (道路)	交通事故 (その他)	動作の 反動等	その他	分類 不能	合計	前年 同期
製造業	6			1	1		4										2					14	14
食料品	1																					1	1
繊維・繊維製品																							
木材・木製品	1						1															2	2
ハルブ・化学	2			1	1		3										1					8	6
鉄鋼・金属製品	2																					2	1
一般機械器具																	1					1	
電気機械器具																							
輸送用機械器具																							
その他の製造業																							3
鉱業															1							1	1
建設業	12				1		2			1												16	20
交通運輸業																						1	1
陸上貨物運送業				1	1							1					4					8	6
港湾荷役業																							
林業																							
商業	2	1															4					9	6
その他の事業	2	2			1						1		2				3				1	10	10
合計	20	3	2	2	4	2	6			1	1	1	2	2	2		13				1	58	58
前年同期	21		1	1	3		13			1	1	1	1				13			4		58	58

平成24年業種別、起因物別死亡災害受理状況

平成24年	原 動 機	動力 伝 達 機 構	木材 加工用 機械	建設 機械 等	金属 加工用 機械	一般 動力 機械	動力 クレー ン等	動力 運搬 機	乗 物	圧力 容器	化学 設備	溶接 装置	炉 窯 等	電気 設備	人力 機械 工具	用具	その他 の装置 設備	仮設物 建築物	危険 有害 物等	材料	荷	環 境 等	その他 の起因物	起因 物 なし	分類 不能	合計	前年 同期
製造業					2	3	1	3										3	1	1	1					14	14
食料品																		1								1	1
繊維・繊維製品																											
木材・木製品																										1	1
ハルブ・化学							1																			2	3
鉄鋼・金属製品					2	1	1	2										1			1	1				8	6
一般機械器具								1										1								2	1
電気機械器具																										1	
輸送用機械器具																											
その他の製造業																											3
鉱業																			1							1	1
建設業			1				2								1			11								16	20
交通運輸業																										1	1
陸上貨物運送業								5													2	1				8	6
港湾荷役業																											
林業																											
商業						2		2	5									1								9	6
その他の事業								1	2					2									2		1	10	10
合計			3	2	2	3	3	11	7					2				15	2		1	3	4		1	58	58
前年同期			1	1	1	2	2	15	7							4	1	14	1			3	3	4		58	58

5 災害事例

災害事例（1）混合機に巻き込まれる

業 種	プラスチック 製品製造業	事業場規模	50人～ 100人	発 生 年 月	平成24年 11月	職 種	プラスチック 製品製造工
年 齢	50代	経 験 年 数	10年	起 因 物	混合機 粉碎機	事 故 の 型	はさまれ・ 巻き込まれ

〈災害発生状況〉

プラスチックシート製造工場において、原材料を混合・加工する機械の掃除作業を行っていた。この機械は8階建建屋の各々、8階に液剤タンク、7階に粉体原料、6階にヒーターミキサー、5階にクーラーミキサー等が設置され、各階の機械は配管で繋がれており、階層を下る毎に原材料等が混合・加工される工程となっていた。

災害発生当日は、2班8名の作業員で作業にあたり、被災者Aは6階ヒーターミキサーの中で、作業員Bはヒーターミキサーの外で作業していた。その後、他の作業員からBに対し、1階部の掃除が終了したと連絡が入った。作業員Bは、次に掃除するクーラーミキサーについて、作業を容易にするため予めミキサー中を攪拌しようと、制御盤のクーラーミキサー起動ボタン押そうとしたところ、誤って制御盤上に並設されているヒーターミキサーの起動ボタンを押した。これによりヒーターミキサーが起動し、内部で作業していた被災者Aがヒーターミキサーの攪拌羽根に身体を巻き込まれて死亡した。

なお、ヒーターミキサーには、蓋が開いているときは機械が起動しないリミットスイッチが設けられていた。しかし災害発生時、ヒーターミキサーの蓋は開いていたが、リミットスイッチは故障により機能していなかった。

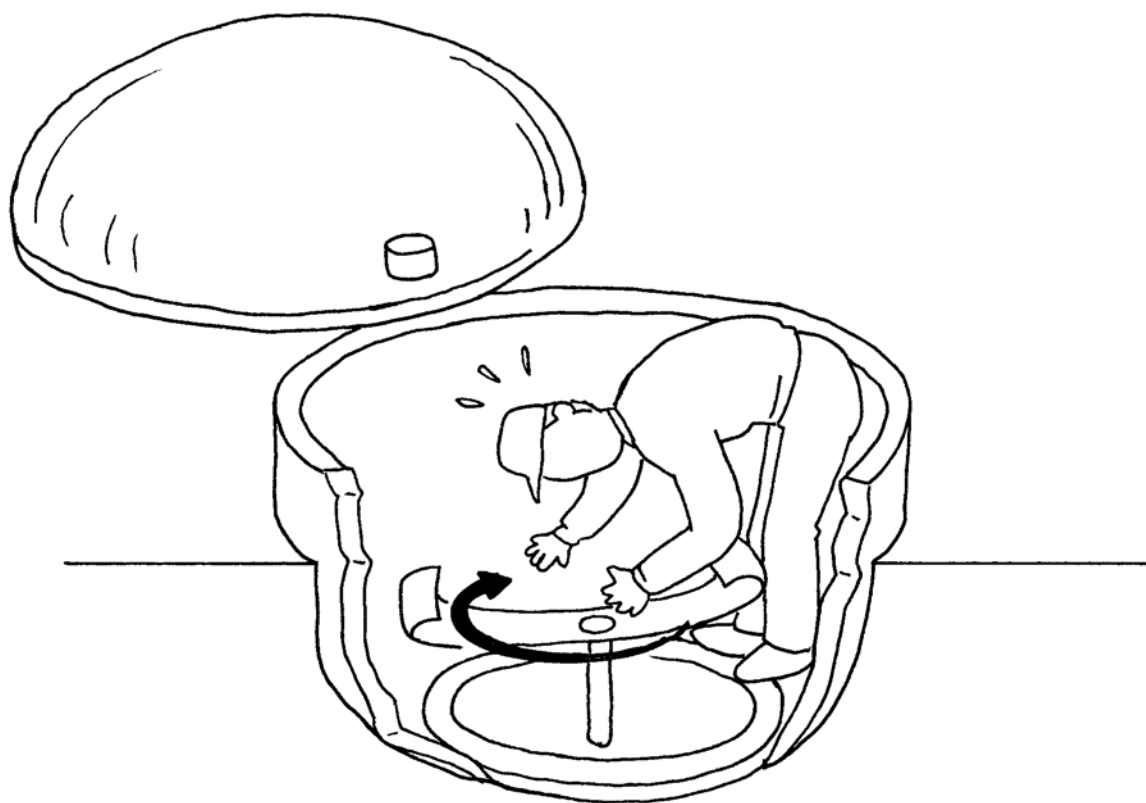
〈災害発生原因〉

- ① ヒーターミキサーの掃除作業を行う場合において、機械の運転を停止したときに、掃除作業に従事する労働者以外の者が当該機械を運転することを防止するための措置を講じていなかったこと。
- ② ヒーターミキサーのリミットスイッチについて、定期的な点検を行わず、リミットスイッチが作動しないままで、掃除作業を行わせていたこと。
- ③ 複数の機械の起動ボタンが、同一制御盤に並設されていたことから、作業員が起動ボタンを誤まって押した。

〈災害防止対策〉

- ① ヒーターミキサーの掃除作業を行う場合において、機械の運転を停止したときに、当該機械の起動装置に錠をかけ、当該機械の起動装置に「内部掃除の為、停止中」などの表示板を取り付ける等、掃除作業に従事する労働者以外の者が当該機械を運転することを防止するための措置を講じること。
- ② ヒーターミキサーのリミットスイッチについて、定期的な点検を実施し、リミットスイッチが適切に作動していることを確認したうえ作業を行わせること。
- ③ 機械の起動ボタンの誤押下を防止するため、制御盤の起動ボタンをキーに変更するなど、容易に起動できないものにすること。
- ④ 機械の掃除作業にかかるリスクアセスメントを実施し、これに基づいた作業手順書を作成したうえ、関係労働者に教育、遵守させること。

〈災害発生状況図〉



災害事例（2）躯体と外部足場の隙間から、13m墜落

業 種	建築工事業	事業場規模	1人～9人	発 生 年 月	平成24年 6月	職 種	鳶 工
年 齢	30代	経 験 年 数	14年	起 因 物	足 場	事 故 の 型	墜落・転落

〈災害発生状況〉

体育館の解体工事のため、四方に外部足場を設置していた。

午後5時ごろ、強風による足場の倒壊を防止するため、外部足場と躯体をロープで固定することとなり、西側足場の7段目か8段目から躯体屋上の腰壁に、足場筋交いを乗り越えて乗り移ろうとして、足場と躯体との隙間（約50cm）から13m墜落したもの。

西側躯体側には、腰壁の下方に内足場を4段設置していた。

西側足場外側には防音シートが張られ、墜落防止措置として内外に交差筋交いと下さんが設置されていた。

また、さらに躯体側からの墜落養生のため、足場から躯体側へブラケットを張り出していた。

しかし、墜落した箇所については、災害発生当日の15時30分ごろ、解体箇所が近接してきたため取り外されていた。

外部足場は解体時に散水するために設けていたことから、躯体側での作業は予定しておらず、足場から躯体への渡り等は設けていなかった。

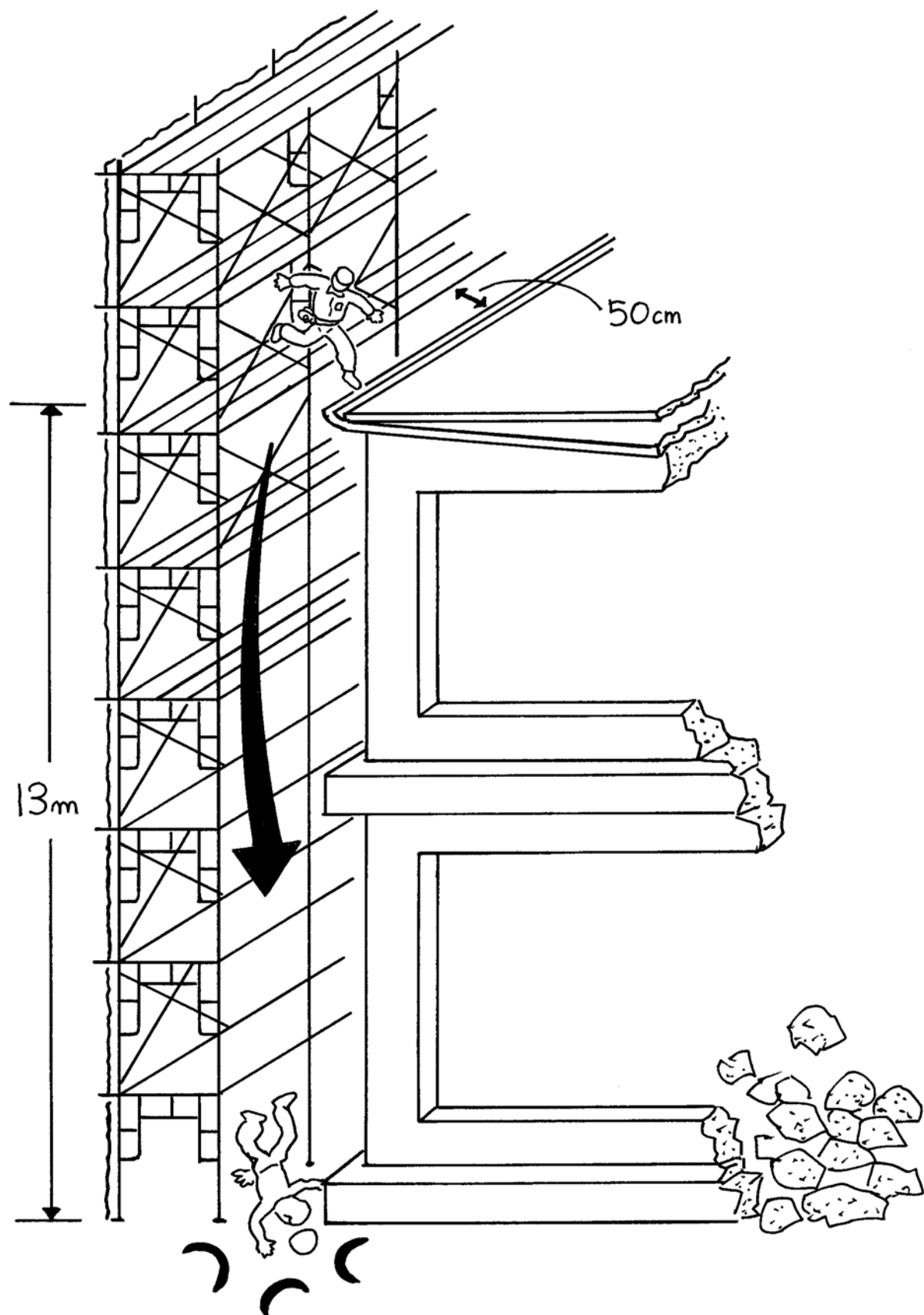
〈災害発生原因〉

- ① 足場筋交いを乗り越えて、屋上腰壁に乗り移ろうとしたこと。
- ② 張り出しブラケットを、作業直前に外したこと。
- ③ 強風対策のロープ固定方法について、作業前に設置箇所・設置方法を十分検討しなかったこと。

〈災害防止対策〉

- ① 足場の筋交いや手すりを乗り越えて、移動しないこと。
- ② 墜落養生等の解体は、他の作業の進行状況を考慮の上、時期を検討すること。
- ③ 臨時のロープ固定作業等、作業手順書にない作業を行うときは、改めてリスクアセスメントを実施し、これに基づいた作業手順書を作成し、これを遵守させること。

〈災害発生状況図〉



災害事例（3）吊り足場が崩壊し、足場板とともに墜落

業 種	その他の 建築工事業	事業場規模	30人～49人	発 生 年 月	平成24年 8月	職 種	とび工
年 齢	50代	経 験 年 数	10年	起 因 物	足 場	事 故 の 型	墜落・転落

〈災害発生状況〉

本件工事に使用されたつり足場は、システム工法で設置された。

システムの概要は、単管2本を主桁（「親ご」）とし、このパイプに取り付けられた金具に専用の単管を複数本（今回の事故の場合は10本）を渡すように差し込み、これを「ころばし」として四角い「桙」を作る。

「親ご」には「ころばし」を固定するための金具があり、その中央部に突起（ピン）がある。「ころばし」用単管の先端部には穴が開けられており、この穴をピンに差し込むことにより、桙を維持している。

この「桙」の上に足場板を敷き詰め、これを一つの単位として、チェーンなどで吊りながらつなぎ合わせて順次拡張する。本件工事中においては「親ご」約4メートル、「ころばし」約2メートルの「桙」を作成し、高所作業車を使用して東側から西側に順次延長することとしていた。

被災者は、他の作業者と2名で、本来直線になるべき足場がやや北側に曲がっており、橋脚に沿って設置されていた足場と橋脚との間隔が、西に行くほど広がっているずれを補正するため、西側に伸びた足場の先端部橋脚側の足場に3本のレバーブロックを設置し、徐々に足場を牽引しながらずれを補正していた。

牽引した状態が維持できているか確認するため、最も東側に設置したレバーブロックを他の作業者が一旦緩めたところ、被災者の乗っていた足場が崩壊し、「ころばし」と足場板の一部と共に、被災者は約14メートル下のコンクリート製通路に墜落した。

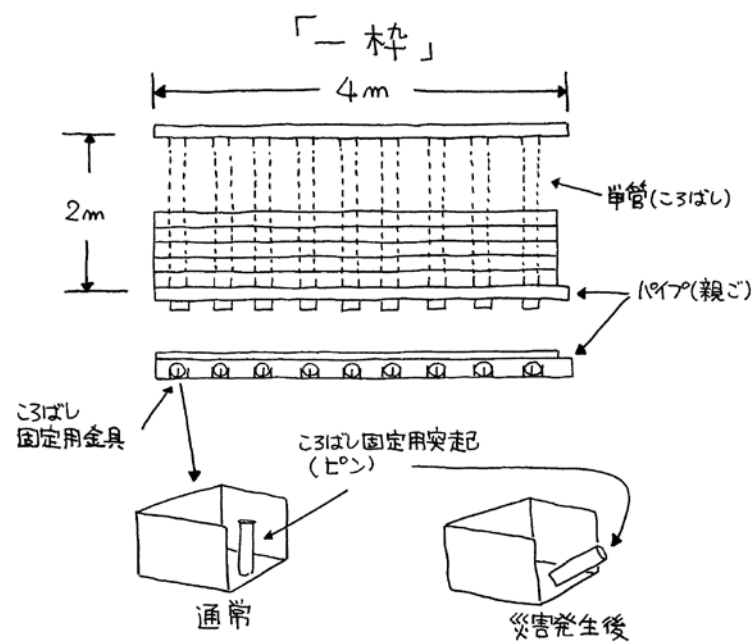
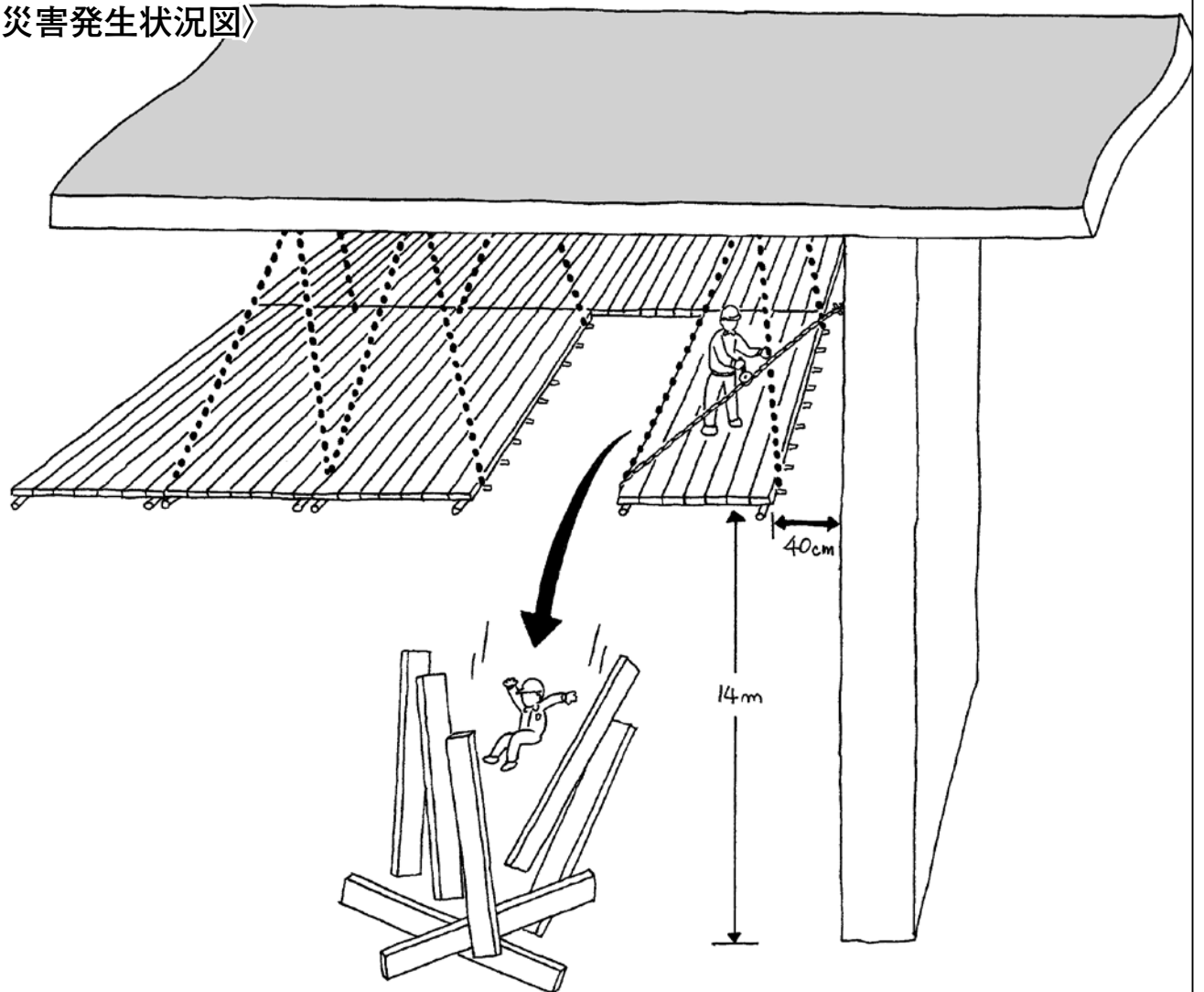
〈災害発生原因〉

- ① レバーブロックを使用して引っ張ったため、強い力が横方向に加わり、ピンが変形し、「ころばし」が「親ご」から浮き上がり、レバーブロックを戻した時の反動で浮き上がった「ころばし」が外れたものと考えられる。
- ② 足場の組立時に、本来なら足場板の上に単管を渡し、クランプで固定する「腹おこし」を設置する手順であったが、設置していない状況で、ずれを補正する牽引を行ったこと。
- ③ 補正作業について、元方事業者を含めた十分な検討が行われていなかったこと。

〈災害防止対策〉

- ① 作業手順にない足場のずれ修正作業を行うに際し、元方事業者とともにリスクアセスメントを実施し、安全な作業計画を建てること。
- ② つり足場とは別に親綱を設置し、これに安全帯を掛けることにより、足場崩壊とともに墜落しないような措置を講じること。

〈災害発生状況図〉



災害事例（４）移動式クレーンで建築資材を搬入中、吊り荷が落下して下敷となったもの。

業 種	道路貨物 運送業	事業場規模	30人～49人	発 生 年 月	平成24年 6月	職 種	運転者
年 齢	60代	経 験 年 数	16年	起 因 物	足 場	事 故 の 型	はさまれ・ 巻き込まれ

〈災害発生状況〉

被災者は、同僚とともに建築資材を建築現場に運送する業務に従事していた。建築現場に到着後トラック3台の建築資材を降ろし、4台目の建築資材の一部を仮置きするために、玉掛け作業責任者である被災者の指示のもと玉掛けを行い、現場に設置されていた移動式クレーン（つり上げ荷重12トン）の運転者に巻き上げの合図を行った。当該移動式クレーンの運転者がクレーン操作を行っていたところ、つり荷である建築資材（三角柱の形をした重量約340キログラムもの）が斜めの状態であったため玉掛け用具（ベルトスリング）からすりぬけて落下し、被災者が落下した建築資材の下敷きとなったもの。

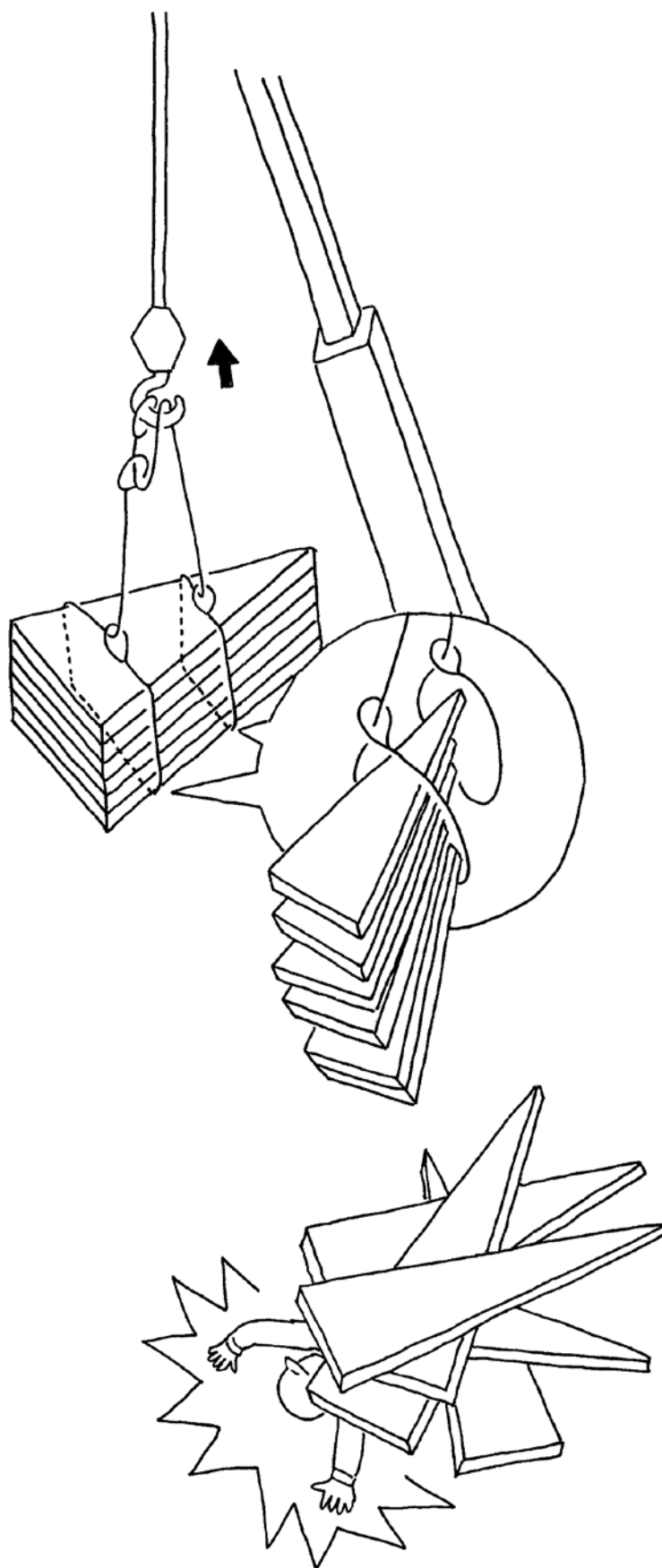
〈災害発生原因〉

- ① 材料の形状に応じた玉掛け方法を実施しなかったため。
- ② 斜め吊りの状態のままつり上げたため。
- ③ つり荷の振れる範囲内で合図していたため。

〈災害防止対策〉

- ① 三角柱の鋭角側及びその反対側にワイヤモッコを使用して、つり荷を包み込むような方法により滑り落ちたりしない玉掛け方法を検討する。
- ② アイボルト・アイナットなどが使用できるよう事前に建築資材に加工を施す。
- ③ つり荷の状態が不安定のときはただちに作業を中止し、玉掛けをやり直すなどの措置をとる。
- ④ つり荷の落下などにより危害が及ぶ恐れのある位置に立ち入らないようにする。

〈災害発生状況図〉



災害事例（5）パワーゲートで荷降ろし中パレット台車が落下下敷となったもの。

業 種	道路貨物 運送業	事業場規模	30人～49人	発 生 年 月	平成24年 5月	職 種	運転者
年 齢	50代	経 験 年 数	10年	起 因 物	荷姿のもの	事 故 の 型	崩壊・倒壊

〈災害発生状況〉

被災者は、配送先で荷を載せたパレット台車（約486キログラム）を搬出するため、荷台後ろのパワーゲートを使用し単独で荷降ろし作業をしていた。この時パワーゲートに載せていたパレット台車がバランスを崩し倒れてきたので、支えようとした運転手が支えきれずに下敷きになったもの。

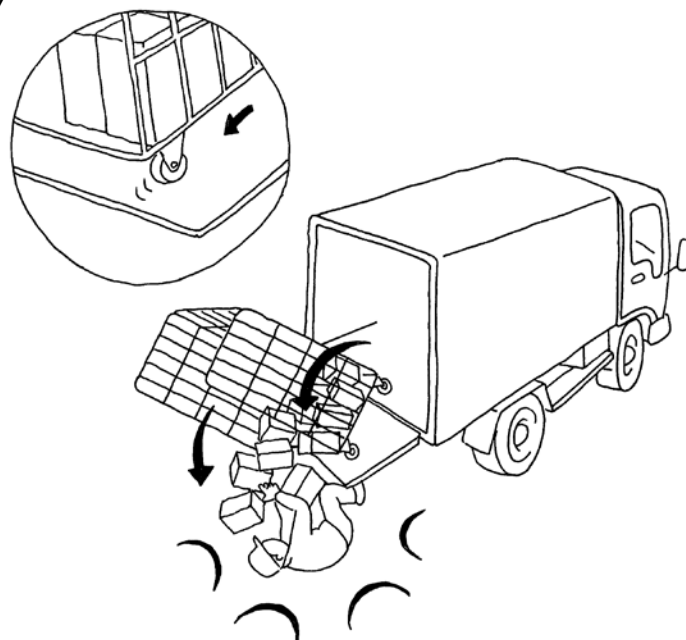
〈災害発生原因〉

- ① 倒れ落ちそうになった台車を支えるため、倒れてくる位置に入ったため。
- ② パワーゲート上のキャスタストッパを使用しなかったため。
- ③ パワーゲートの端など台車を置く位置が悪かったため。

〈災害防止対策〉

- ① パワーゲートのキャスタストッパを使用する。または、台車の車止めを使用するなど台車が不意に動き出さないようにする。
- ② バラ物を積載するときはゴムバンドで固定するなど、バランスを崩さないような措置をとる。
- ③ 積載荷重を表示するなど、人の手では支えきれないことがはっきりとわかるようにすること。

〈災害発生状況図〉



災害事例（6）熱中症で死亡

業 種	一般飲食店	事業場規模	30人～49人	発 生 年 月	平成24年 7月	職 種	調理作業員
年 齢	50代	経 験 年 数	3日	起 因 物	高温 低温環境	事 故 の 型	高温・低温 との接触

〈災害発生状況〉

被災者は、飲食店内厨房において、うどんの麺生地からプレス機や製麺機を使用しうどんの麺を造り、これを1人前づつに計量する業務を行っていた。

被災者は、作業開始直後から流れるような汗をかき始め、作業開始から30分程度経過した頃からその場でしゃがみ込んだり、しばしば水を飲むようになった。その後、しゃがみ込んだり、水を飲む間隔が短くなってきたことから上司より休憩室で休むよう指示されたので、被災者は一人で休憩室に行き椅子に座って休んでいた。しばらくして、被災者の様子を見に行った同僚は、被災者の様子がおかしいことに気づき声を掛けたところ、口から泡を吹き椅子から崩れ落ちたので、すぐに救急車を呼んで病院に搬送したが、熱中症により死亡したものである。

〈災害発生原因〉

- ① 被災者は入社3日目であり、作業環境に慣れておらず、熱への順化（暑さに慣れ当該環境に適応すること）が図られていなかったこと。
- ② 被災者は、水分を補給していたが塩分の補給を行っていなかったこと。
- ③ 熱中症の症状や緊急時の救急措置等についての教育が行われていなかったこと。
- ④ 被災者の健康状況を把握していなかったこと。

〈災害防止対策〉

- ① 熱への順化期間を設け、暑さに慣れるまで出来る限りこまめに休憩を与える等必要な対策を講じること。
- ② 作業場所及びその付近には水分及び塩分を補給できるよう備え付けるとともに、作業員に対し定期的に摂取させること。
- ③ 作業場所のWBGT値（暑さ指数）を測定し、基準値を超えている場合は、熱中症発症のリスクを避けるためこまめに休憩を与える等必要な措置を講じること。
- ④ 熱中症予防対策に関する労働衛生教育を実施すること。

災害事例（7）食器洗浄機を点検中、感電し死亡

業 種	一般飲食店	事業場規模	10人～29人	発 生 年 月	平成24年 5月	職 種	店 長
年 齢	30代	経 験 年 数	4年	起 因 物	その他の 一般動力機械	事 故 の 型	感 電

〈災害発生状況〉

従業員が食器洗浄機を使用していたところ、突然停止したため、作業を中止し電源を落とし被災者に連絡した。被災者は、作動しなくなった食器洗浄機の扉を開け、故障箇所を特定しようと携帯電話の照明を明かりとして中を覗き込んでいた。

その後、床に両膝を付け、食器洗浄機前面の扉にうつぶせでもたれかかった状態で動かなくなっているところを発見された。なお、食器洗浄機が設置されていた場所は、食器洗浄機を使用していた関係で床面が水で濡れていた。

また、食器洗浄機は、店舗のコンセントに見合うように電源プラグが交換されていた。

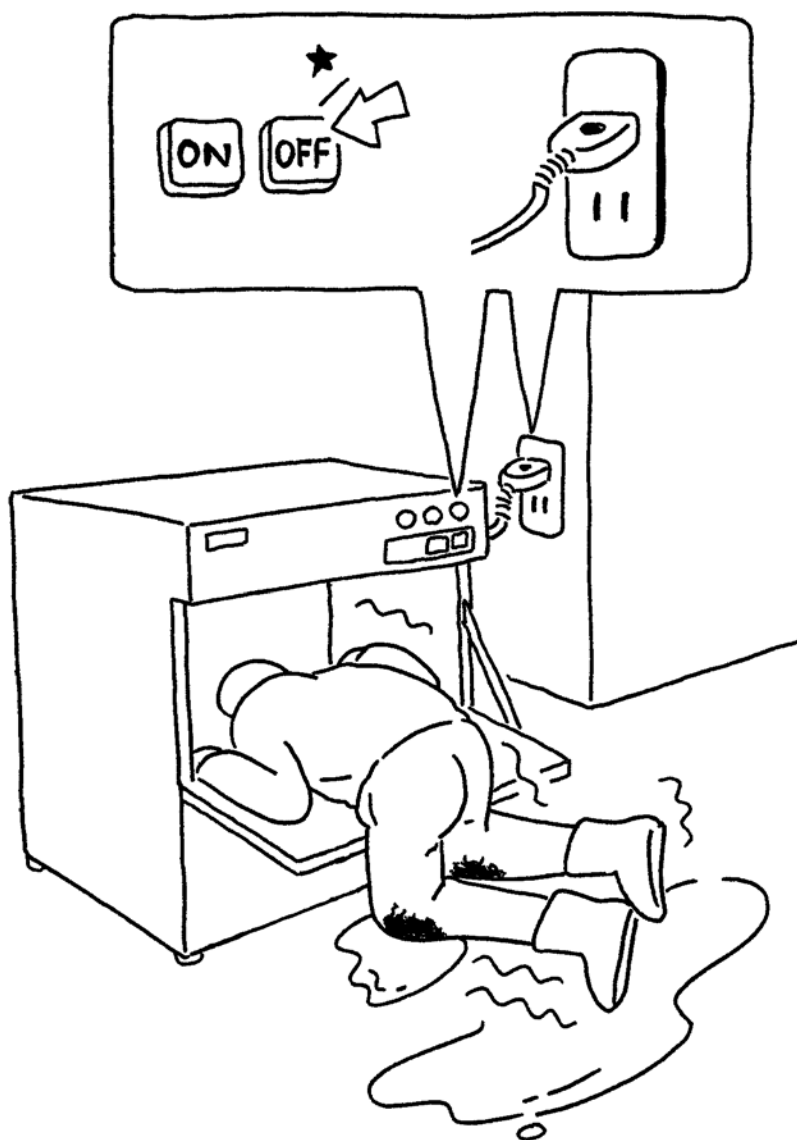
〈災害発生原因〉

- ① 食器洗浄機の故障箇所の確認を行うにもかかわらず、主電源をOFFにしないで、電源プラグはコンセントに差したまま確認作業を行ったこと。
- ② 食器洗浄機に欠陥は認められなかったが、電源プラグ部分に交換された後が認められ、その内部が焼き切れていたこと。
- ③ 食器洗浄機が設置されていた場所は、床が水で濡れていた場所であったこと。
- ④ ブレーカーやコンセント等の電源部分に漏電遮断装置が設置されておらず、漏電に対する対策が講じられていなかったこと。

〈災害防止対策〉

- ① 食器洗浄機に異常が認められた時は、食器洗浄機の電源をOFFにするだけでなく、電源プラグをコンセントから外すことやブレーカー等をOFFにして、当該機械の取扱説明書に基づき確認すること。また、異常時取扱いに対する作業手順を確立し、労働者に周知徹底すること。
- ② 使用する店舗の電流や電圧、コンセントの形状に見合った食器洗浄機を設置すること。若しくは、店舗で使用できるように改造する必要がある場合は、メーカー等に発注すること。
- ③ 何らかの原因で漏電が発生した場合でも感電を防止出来るように漏電遮断機を取り付ける等、漏電防止措置を適切に講じること。

〈災害発生状況図〉



災害事例（8）自転車で移動中転倒し頭部を強打して死亡

業 種	卸・小売業	事業場規模	1人～9人	発 生 年 月	平成24年 7月	職 種	販売店員
年 齢	60代	経 験 年 数	32年	起 因 物	人力運搬機	事 故 の 型	転 倒

〈災害発生状況〉

被災者は、1階にある作業場内の詰め所から、自転車に乗りスロープを通して地下の作業場所へ向かった。その後、スロープを通った他の作業者が、乗っていた自転車とともに転倒している被災者を発見した。

被災者は、意識がハッキリしており、会話や受け答えも明瞭で特段異常も認められなかったため、上司の指示により休養させていた。

しかし、しばらくして様子を見に行った際に被災者の意識がやや混濁していたことから、救急車にて病院へ搬送し外科的処置を受けたものの死亡した。

なお、スロープのこう配は約4.5度であり、通行車両のスリップ防止用の窪みが設けられていた。使用した自転車は、市販の折りたたみ自転車であり前輪・後輪ともブレーキに異常は見られなかった。

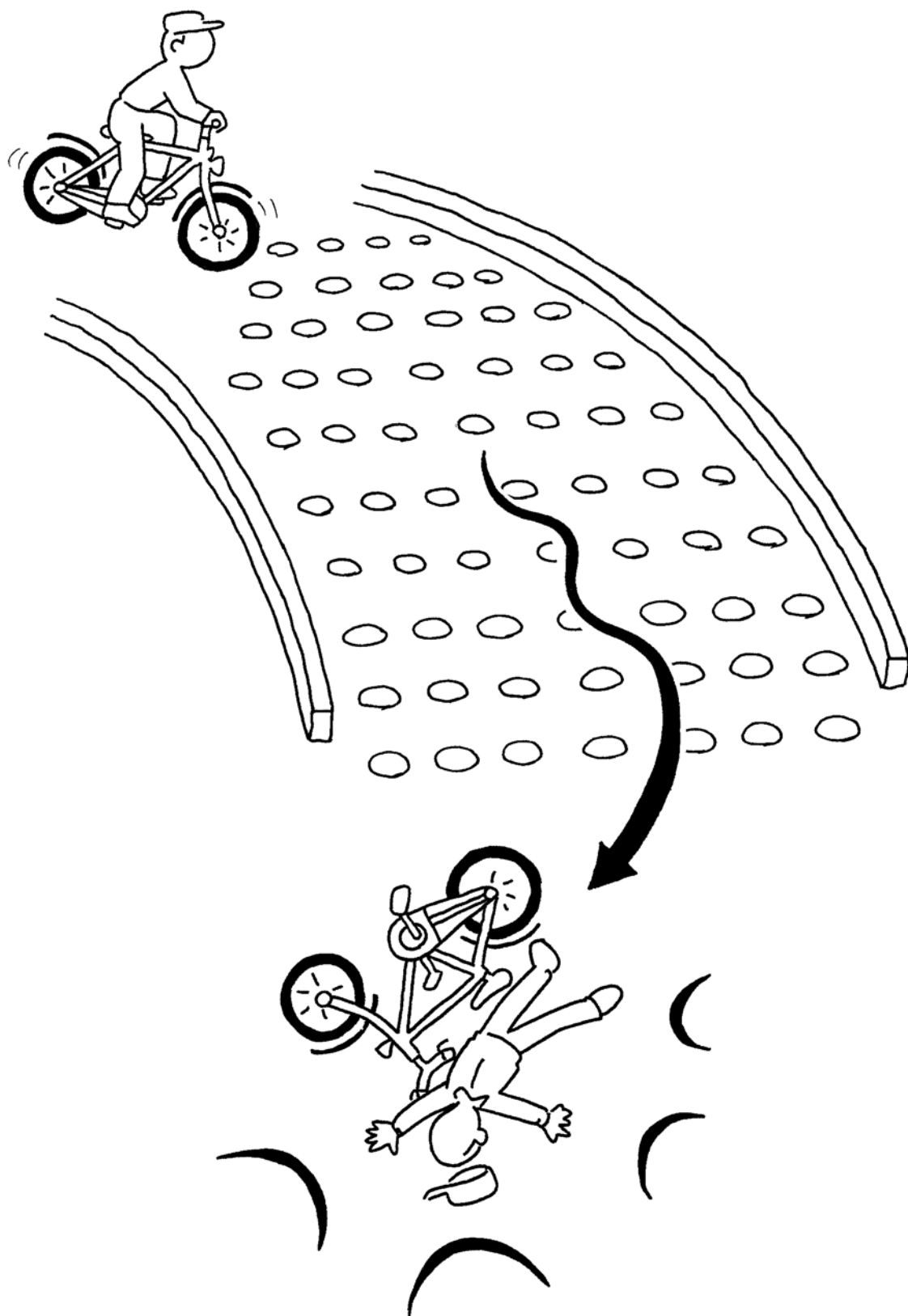
〈災害発生原因〉

- ① スロープが下り坂であったため、被災者が乗った自転車の速度が出すぎ、速度制御が出来なくなったこと。
- ② 自転車で走行中、路面に設けられたスリップ防止用の窪みにハンドルを取られたこと。
- ③ 被災者本人の意向により、病院への搬送が遅れたこと。

〈災害防止対策〉

- ① 速度が出やすく、路面の状況により転倒する危険性が高いスロープ等には自転車運転時の転倒危険箇所であることを明示し、速度の出し過ぎには十分注意するように安全教育を実施すること。
- ② 平衡感覚に衰えが見られる高齢労働者は、スロープを使用する際は、自転車を押しながら徒歩で下るように指導教育すること。
- ③ 転倒事故等で事故の状況から判断して、頭部等への損傷が疑われる際は、本人の意向にかかわらず救急車を要請し、早急に医療機関で適切に受診させること。

〈災害発生状況図〉



6 死亡災害一覧（平成24年）

製造業									
番号	発生日	業種	性別	年齢	職種	経験	事故の型	起因物	発生状況
1	2月	その他の 金属製品製造業	男	60代	ガス溶接工	20年	飛来・落下	金属材料	ポンプの金属部品（重量 1.4 トン）を溶接加工していた際、仮止めしていた溶接箇所が外れて当該部品が落下し、被災者が下敷きとなった。
2	3月	製鉄・製鋼 圧延業	男	40代	その他の 職種	20年	墜落・転落	建築物、 構築物	工事業者による工業用水配管の修理終了後、工事発注者側の工事立会人が、工事のため閉めていた配管バルブを開けるため、工場内配線ラックの石膏防護ボード上（地上 5m、厚さ 1cm）に乗っていたところ、防護ボードが割れて落下した。
3	3月	飲料製造業	男	50代	フォークリフト 運転者	20年	墜落・転落	作業床、 歩み板	パレット（1 m × 2 m）に乗せたコーヒード豆（250kg）を 2 階から 1 階に降ろす作業をしていた被災者が、2 階の資材搬入口付近まで、後ろ向きにパレットを引きずっていたところ、2 階搬入口から 3.6 m 下の 1 階床に墜落した。
4	3月	紙加工品 製造業	男	60代	作業員	25年	墜落・転落	エレベーター、 リフト	1 階にある操作盤で 2 階に停止中の荷物昇降機を作動させたところ、搬送機が降りてこなかった。被災者は点検を行うため、2 階から搬送機に乗り込み作業していたところ、突然搬送機が落下したため 1 階に墜落した。
5	4月	金属プレス 製品製造業	男	20代	技能者	3ヶ月	はさまれ・ 巻き込まれ	プレス機械	休憩後、フリクションプレスを起動したところ、被災者がフライホイールとフリクションホイールの間に挟まれた。
6	4月	その他の電気 機械器具製造業	男	30代	技術者	6年	交通事故 （道路）	トラック	2 トントラックを運転して出張中の被災者が、信号待ちしていたタンクローリーに追突した。
7	5月	その他の 金属製品製造業	男	40代	その他の 製造工	9ヶ月	墜落・転落	フォークリフト	工場内の水銀灯を交換するため、フォークリフトにパレットを 13 枚を重ね、その上に被災者を乗せて電球の交換作業を行っていたところ、パレットから約 6 メートル下に転落した。
8	7月	その他の 金属製品製造業	男	50代	営業・販売 関連事務員	2年	交通事故 （道路）	トラック	取引先に納品するため、高速道路を走行中、ガードレールに激突した。
9	7月	機械器具製造業	男	30代	技術者	14年	墜落・転落	その他の 一般動力機械	コンバインの性能検査を行うため小麦の刈り取り作業を行っていた被災者が、畑の土手端で方向転換のため後進したところ、土手下に転落し、コンバインの下敷きとなった。
10	8月	機械器具製造業	男	30代	作業員	8年	墜落・転落	屋根	工場の屋根に散水機及びホースを設置する作業を行っていた被災者が、明り取り部分の波板を踏み抜き約 7 m 下に墜落した。
11	9月	その他の 金属製品製造業	男	30代	金属加工・ 金属製品 検査工	7年	はさまれ・ 巻き込まれ	産業用ロボット	安全柵の中に入り作業開始直後の 1 個目の製品の計測作業を行っていたところ産業用ロボットが動きだし、製品と産業用ロボットのアームとの間に胸部を挟まれた。
12	11月	プラスチック 製品製造業	男	50代	プラスチック 製品製造工	10年	はさまれ・ 巻き込まれ	混合機、粉碎機	プラスチック原料を攪拌するヒーターミキサー内で掃除を行っていたところ、同僚作業員が、誤ってヒーターミキサーの起動スイッチを押したため、ミキサー内の攪拌羽が回転し巻き込まれた。
13	11月	その他の鉄鋼業	男	40代	金属工作 機械工	22年	はさまれ・ 巻き込まれ	その他の 金属加工用機械	スリッターラインの点検作業を行っていた被災者が、下降してきたテーブルと機械の基礎のコンクリートに挟まれた。
14	11月	その他の 金属製品製造業	男	50代	金属工作 機械工	21年	崩壊・倒壊	荷姿の物	三段に積み重ねた金属製の箱（高さ 165 センチメートル）を人力で移動させていたところ、隣に積み上げていた網籠に引っ掛かった。これを外そうと揺すっていたところ網籠が崩れ、補助に来ていた被災者に激突した。

建設業									
番号	発生月	業種	性別	年齢	職種	経験	事故の型	起因物	発生状況
1	1月	その他の建設業	男	40代	現場職員	2年	墜落・転落	はしご等	看板及び提灯取付用のフレーム設置作業中、スライド式のはしごに登って不具合を確認していたところ、高さ2.5 mからバランスを崩し墜落した。
2	1月	その他の建築工事業	男	60代	溶接工	不明	墜落・転落	階段、さん橋	6階建て鉄骨造建築物解体工事において、6階から屋上部分に通じる外部階段を切断する作業中に、先に撤去されていた手すりのない部分から墜落した。
3	1月	その他の建設業	男	60代	解体工	15年	墜落・転落	トラック	木造家屋解体工事で、廃材をダンプトラックに積み込む作業中、廃材積み込み後にトラック荷台の廃材上で荷かけ作業を行っていたところ、後ろ向きに2.6 mの高さから地面に墜落した。
4	3月	道路建設工事業	男	70代	運転者	37年	墜落・転落	掘削用機械	道路工事現場にてドラグショベルを運転し、法面に生えた木の根を伐根・集積する作業を、幅3.8 mの犬走りで行っていたとき、端部地山が崩落し、ドラグショベルごと約17 m下の谷底に転落した。
5	3月	機械器具設置工事業	男	40代	技術者	20年	はさまれ・巻き込まれ	エレベーター	建設現場内に設置工事中のエレベーターのロープクリアランス調整作業中、被災者がピット内に残り、他の作業者が搬器上で運転操作を行っていたところ、下降してきたカウンターウエイトと、鉄骨梁に腹部をはさまれた。
6	4月	機械器具設置工事業	男	20代	機械工	3月	はさまれ・巻き込まれ	その他の装置、設備	除塵機に部品を取り付ける作業中、地下1階にいる作業者がテルハ（クレーン）を用いて部品Aを降下させていたとき、部品Aが急速降下し、地下3階にあるスクリーン（鋼製の格子状の板）の裏にいた被災者が、スクリーン開口部と部品Bに頭部を挟まれた。 部品Aと部品Bはループ状に連結されており、部品Aが降下すると、部品Bが上昇する構造であった。
7	5月	機械器具設置工事業	男	60代	作業員	13年	墜落・転落	その他の仮設物、建築物、構築物等	被災者は機械の搬出作業中、2階屋上に設けられた機械室の屋上（高さ約3.7 m）に上り、一人でクレーンの誘導作業を行っていたが、2階屋上で仰向けに倒れた状態で発見された。 機械室の屋上から垂直タラップで降りる際に墜落した。
8	5月	その他の建設業	男	50代	潜水夫	32年	おぼれ	水	プラントにおける取水設備の点検、清掃、クラゲ防止網取付作業において、深さ5 mの取水配管内に潜水し、最終確認作業を行っていたところ、送気ホースの動きが止まったため手繰り寄せたところ意識を失っていた。
9	6月	鉄骨・鉄筋コンクリート造り家屋建築工事業	男	30代	作業員	16年	墜落・転落	足場	体育館解体工事現場において、強風による足場の倒壊を防止するため、足場と躯体を固結する繊維ロープを取付ける作業中、高さ約13 mの外部足場から躯体屋上の擁壁に移動しようとして、約50 cmの隙間から墜落した。
10	7月	その他の建設業	男	20代	作業員	1年	墜落・転落	足場	橋梁上部撤去工事において、トラスト部材（欄干）を切断撤去した後、足場解体作業中に高さ8 mの足場から河川敷に墜落した。 解体する足場（単管）に安全帯を掛け、その単管パイプのクランプを緩めたため、足場ごと墜落した。

番号	発生月	業種	性別	年齢	職種	経験	事故の型	起因物	発生状況
11	7月	木造家屋 建築工事業	男	30代	土工	2年	崩壊・倒壊	建築物	住宅の地盤沈下修正工事において、床下の地盤を約1.5 m掘削し、さらに手掘りで横方向に掘削している際、上部の基礎のコンクリートの一部が崩落し、被災者が地面との間に挟まった。 その後豪雨となったため、掘削箇所に浸水し、溺死した。
12	8月	その他の 建築工事業	男	40代	とび工	3年	墜落・転落	屋根、はり、もや、けた、合掌	工場のスレート屋根上で、雨漏り補修のため波鉄板を敷きこむ作業中、スレートを踏み抜き、高さ約4.8 mから墜落した。
13	8月	その他の建設業	男	50代	とび工	10年	墜落・転落	足場	高架橋塗替工事において、橋脚間につり足場を設置する作業中、ずれた足場の位置を補正するため、レバーブロックを使用してつり足場をけん引し、作業員がレバーブロックの緊張を戻したところ、けん引していた足場の一部(2 m×4 m)が崩壊し、足場とともに14 m下に墜落した。
14	10月	その他の 建築工事業	男	20代	とび工	7年	墜落・転落	屋根、はり、もや、けた、合掌	貸し工場解体工事現場において、足場の組み立て作業を行っていた被災者が、解体予定のスレート屋根上を移動中、明かり取りの塩化ビニル波板を踏み抜き、約8 m下の工場床に墜落した。
15	11月	その他の建設業	男	50代	防水工	25年	墜落・転落	建築物、構築物	4階建てマンションの屋上防水工事現場において、当該マンションの屋上に移動するため隣接するマンションの屋上に上がり、床に養生シートを敷く作業中、屋上の外周にある立ち上げりに右足のかかとをひっかけ、体勢を崩し、高さ11.7 mから地上に墜落した。
16	11月	建築設備工事業	男	30代	屋根ふき工	14年	墜落・転落	屋根、はり、もや、けた、合掌	個人住宅のウッドデッキの屋根部分に鋼板を張り付ける作業のため、午前9時ごろ一人で現場に入場した。 14時ごろ応援の労働者が、ウッドデッキ前の地面で頭部から出血して倒れている被災者を発見した。 付近にははしごが倒れており、被災者のものと思われる保護帽が落ちていた。

運輸業

番号	発生月	業種	性別	年齢	職種	経験	事故の型	起因物	発生状況
1	2月	一般貨物 自動車運送業	男	30代	貨物自動車 運転手	5年	激突され	トラック	貨物船からコンテナを陸揚げするにあたり、コンテナが乗ったシャーシをトレーラーでけん引し、貨物船と岸壁を往復する作業中、岸壁部分で、コンテナ(間口2.4 m×2.5 m、奥行6 m約9 tアルミコイル×2本入)がシャーシから右前方に飛び出すように崩れ、運転席に激突した。
2	2月	一般貨物 自動車運送業	男	40代	貨物自動車 運転手	10年	交通事故 (道路)	トラック	被災者が運転する4 tトラックが国道下り線を走行中、前方走行中のトレーラーに追突し、弾みで中央分離帯とガードレールに接触し炎上した。

番号	発生月	業種	性別	年齢	職種	経験	事故の型	起因物	発生状況
3	5月	一般貨物 自動車運送業	男	50代	貨物自動車 運転手	10年	崩壊・倒壊	荷姿の物	配送先において、テールゲートリフターを使用して荷(300～400kgのカーゴ)を降ろす作業をしていたところ、荷がリフターから落ちそうになったため、支えようとしたところ、荷が崩れその下敷きになった。
4	6月	一般貨物 自動車運送業	男	60代	運転者	16年	飛来・落下	荷姿の物	住宅建築現場において、トラックで搬送してきた建築資材をクレーンで吊り上げ、現場へおろしている際に資材が落下し、その下敷きになった。
5	7月	一般貨物 自動車運送業	男	30代	貨物自動車 運転手	3年	有害物との 接触	異常環境等	冷蔵冷凍車の荷台で被災者が倒れているのが発見され、3時間後に死亡した。積み荷のアイスクリーム等に入っていたドライアイスから発生した二酸化炭素による酸欠症と考えられる。
6	10月	一般貨物 自動車運送業	男	60代	貨物自動車 運転手	22年	交通事故 (道路)	トラック	4 tトラックで国道を西に走行中、交差点手前で対向車線に進入し対向車に衝突した。
7	10月	一般貨物 自動車運送業	男	50代	運転者	10年	交通事故 (道路)	トラック	4 tトラックで国道を走行中対向車線に移り逆走し、対向から走行してきた大型トラックに正面衝突した。
8	10月	一般貨物 自動車運送業	男	60代	貨物自動車 運転手	12年	交通事故 (道路)	トラック	被災者が運転するトラックが、渋滞で停止していたワンボックス車と大型トレーラーに追突したものの。

その他

番号	発生月	業種	性別	年齢	職種	経験	事故の型	起因物	発生状況
1	1月	その他の 小売業	男	70代	その他の 職種	5年	交通事故 (道路)	乗用車、 バス、バイク	配達のため車で走行中、交通事故を起こした。
2	2月	社会福祉施設	男	50代	作業員・ 技能者	2年	分類不能	分類不能	午前9時にカフェの厨房で立ったままカウンターに伏せているところが発見された。心筋梗塞で死亡。発症前2ヶ月平均の時間外労働が80時間超え。
3	3月	その他の商業	男	40代	作業員・ 一般技能者	6年	墜落・転落	開口部	被災者は、立体駐車場の機械部分等の保守点検作業を実施するため、高さ約16 mの箇所に自動車用搬器に乗って移動し、当該自動車用搬器を作業床として、駆動部分等の点検を行っていたところ、開口部から墜落した。
4	3月	新聞販売業	男	50代	営業・販売 関連事務員	7ヶ月	交通事故 (道路)	トラック	被災者は、原付バイクに乗り走行中、交差点で右折してきたトラックに衝突し、脳挫傷により死亡した。
5	3月	農業	男	30代	作業員・ 技能者	10年	転倒	高所作業車	作業床の高さが12 mの高所作業車を用いて公園の立木の剪定作業を行っていた際、当該高所作業車が転倒し下敷きになった。
6	3月	農業	男	40代	作業員・ 技能者	20年	転倒	高所作業車	作業床の高さが12 mの高所作業車を用いて公園の立木の剪定作業を行っていた際、当該高所作業車が転倒し下敷きになった。
7	3月	その他の事業	男	40代	その他の 計器・光学 機械器具 組立・修理工	28年	交通事故 (道路)	乗用車、 バス、バイク	取引先へ向かうため社用車で高速道路を走行中、中央分離帯の標識に激突した際に追い越し車線側に横転し頭部を強打した。

番号	発生日	業種	性別	年齢	職種	経験	事故の型	起因物	発生状況
8	3月	その他の事業	男	40代	運転者	12年	交通事故 (道路)	乗用車、 バス、バイク	運転代行で客を送り届け、高速道から出て、一般道を横切ろうとしたところ、直進車が車両側部に激突し、助手席に乗っていた被災者が死亡した。
9	5月	ゴルフ場	男	50代	作業員・ 技能者	6年	崩壊・倒壊	地山、岩石	午前中にドラグショベルで掘削した溝の中に午後から入り、溝の底をならす作業を終了し、樹脂製排水管を配置するために溝から出ようとしたところ溝の中央辺りで土砂が崩れ生き埋めとなった。掘削した溝の全長は、約16 m、幅 0.55 m、深さ約 2.6 m であった。
10	5月	一般飲食店	男	30代	管理者	8ヵ月	感電	その他の 電気設備	従業員が食器洗浄機を使用していたところ、突然停止し煙が出たため、電源を落とし作業を中止した。被災者は、食器洗浄機の扉を開け、中を確認していた。しばらくして被災者が感電して倒れているのが発見された。
11	7月	その他の事業	男	50代	管理者	30年	感電	送配電線等	建物の解体、新築工事の事前調査を行っていた際、建物の上空にある特別高圧電線(77000V)と建物屋上との距離(約7m)をアルミ製標尺で測ろうとしたときに標尺が接近しすぎ感電した。
12	7月	その他の 卸売業	男	60代	その他の 職種	32年	転倒	その他の 乗り物	卸売市場において自転車で地上から地下1階につながるスロープ(長さ約114m、勾配約4.5度)を下っていたところ転倒し頭部を強打した。
13	7月	一般飲食店	男	50代	接客娯楽業	0年	高温・低温の 物との接触	高温・ 低温環境	製麺作業に従事していた際体調不良を訴え休憩していたが、熱中症により意識を失い病院に救急搬送された。
14	7月	その他の広告 ・あっせん業	男	20代	営業・販売 関連事務員	3年	交通事故 (道路)	乗用車、 バス、バイク	担当者会議に出席するため、単車で移動中観光バスと接触した。
15	8月	その他の 卸売業	男	30代	商業	11年	交通事故 (道路)	移動式クレーン	社用車で、国道を走行中、交差点に直進で進入したとき、対向車線を右折してきた移動式クレーンと衝突した。
16	8月	倉庫業	男	30代	荷づくり、 包装作業員	5年	激突され	トラック	被災者は、自転車で事業場の出口に向かって走行していたところ、傾斜路(ランプウェイ)に左折して侵入してきたトラックに激突された。
17	9月	その他の 卸売業	男	60代	作業員・ 技能者	7年	爆発	引火性の物	有機溶剤が入っていた空ドラム缶の上部の蓋をエアープラズマ切断機でくり抜こうとしたところ、ドラム缶が爆発した。
18	10月	新聞販売業	男	50代	営業・販売 関連事務員	37年	交通事故 (道路)	乗用車、 バス、バイク	小型自動2輪車を運転して会社の営業所から本社へ移動中、停車中のトラックに追突した。
19	10月	その他の 卸売業	男	20代	配達員	1年	墜落・転落	トラック	市場で、トラックの荷台で、発泡スチロール製の箱が崩れないよう2名で手で押さえたまま、トラックを走行させたところ被災者が荷台から墜落した。
20	12月	砂利採取業	男	60代	砂利、砂、 粘土採取 作業員	20年	爆発	可燃性のガス	砂利採石船で、出航前の打ち合わせを行うため乗り組んでいた作業員が、甲板下の倉庫兼休憩室に備え付けられたプロパンガスボンベが直結されたガスコンロに火をつけようとしていたが、点火装置が故障していたため、柄の長いライターで火をつけたところ爆発した。